

タビメ

絹の街 つるおか 鶴岡



激動の明治、鶴岡をささえたのは絹産業でした



History

鶴岡は、元和8年(西暦1622年)、徳川氏譜代大名の酒井忠勝の入部以来約250年にわたり、庄内藩14万石の城下町として発展してきました。明治維新を迎え廃藩置県のものち、新政府の生糸立国という殖産興業政策に応じることになり、旧庄内藩士約三千人による鶴岡の南東の地、現在の羽黒町松ヶ岡地区の開墾が行われました。

明治5年から始まった開墾事業は、明治10年に、大蚕室10棟(5棟が現存)が創建され、製糸を開始、明治22年以降器械操に移行し生産性を向上させました。明治30年代になると絹織物業はめざましい発展をみるようになり、鶴岡では輸出向けの羽二重の生産が隆盛を極めました。上の写真は当組合の前身である羽前輸出織物同業組合の褒状授与式の写真で、その当時を知る貴重な資料となっています。

戦後、昭和40年代まで鶴岡の基幹産業は絹織物でしたが、昭和39年をピークに生産量は下降し、また中国との競争が激しくなり、特に羽二重の産地は破壊的な打撃を受けました。47年には鶴岡で最大の羽前織物も廃業し、現在は松岡(株)一社となりました。今日、絹織物業は一層厳しい時代を迎えています。鶴岡、酒田を中心とした庄内には養蚕・製糸・製織・精練・染色・プリント・縫製という絹製品を作る一連の技術・体制が域内にある全国的にも稀有な地域で、日本の中で本格的な絹産地の北限となっています。

Process 工程の匠 一貫したプロセスに誕生する絹織物



【養蚕】

桑の葉や蚕の育成に必要な豊かな土、澄んだ水等の自然環境に恵まれたこの地域は養蚕にとって最適な環境となっています。蚕は孵化して約25日間に桑を食べ成長し、その間4回眠り、4回脱皮して糸を吐いて繭を作ります。城下町に培われた気質で今なお手を掛け、心を掛けて養蚕に取り組んでいます。(繭一粒の重さは約2g、糸の長さは約1300から1500mあります。)



【製糸】

機械によって「繭を煮て糸を繰り、数本集めて一本の糸にする工程」のことです。繭はそのままでは糸にすることが出来ません。そこで、一度繭を煮て、柔らかくなった繭からほぐれる一本の糸をほどこき、それを数本集めて一本の糸にしていきます。生糸は10粒前後の繭から引き出した繭糸をそろえたものです。



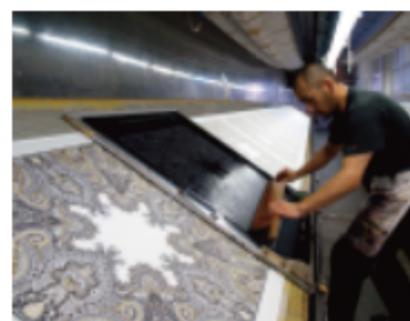
【製織】

製糸会社からくる糸は、針金状で硬く、歪みを多く潜在しているため、そのまま織ると良質の生地にならないので、ソーキング(平滑、柔軟、糊剤等で処理)し使用します。出来た糸をそのまま経糸と緯糸を作り、数本合わせ、撚糸や精練付等を加え製織します。鶴岡で作っている絹織物は基本的に「後染め」という方法で作られています。織り上がった生地に精練、染色するやり方です。



【精練】

出来た絹織物を「一般に石鹼を加えたアルカリ浴でボイル、または酵素を加えたアルカリ浴で処理し、絹の表面に含まれている油脂、夾雑物(非結晶性タンパク質)等を除去する」工程です。製織で出来た布には「セリシン」という物質が付着しています。精練でこの物質を除去し、絹織物の「生地」の完成となります。生地は製品として国内外、様々な地域に出荷されます。



【染色】

先染織物が糸の状態では染色されるのに対して、後染め織物は織物(布)の状態では染色されます。後染めは、好みや流行に応じて無地染めや模様染め(捺染)ができる利点があります。無地染めは染料や助剤を加えた染浴中(染色液の中)に布を浸して同一色に染色したものをいいます。捺染は広い意味で布に染料又は顔料で模様をつけることを指します。

シルク

WITH SILK SINCE 1872

鶴岡織物工業協同組合

山形県鶴岡市大宝寺字日本国 223-5
tel & fax 0235-22-0507
E-MAIL tsuruori@giga.ocn.ne.jp

いくつになっても文庫本が友達という

文学少年少女

のみなさまに向けて

鶴岡市は文学の香りが漂う街です。派手な観光施設や気の利いたお店も少ないけれど、ご夫婦でのんびりと藤沢周平作品の舞台めぐりなどを楽しむ様子が街の随所で見受けられます。

そんな文学好きの皆様にも、日本遺産にも認定された鶴岡市の絹産業「サムライゆかりのシルク」のお土産を開発いたしました。

驚くほど軽く、丈夫な絹のブックカバーを旅の思い出とともに持ち帰っていただければ幸いです。



春は桜に酔い

夏は蝉と深緑

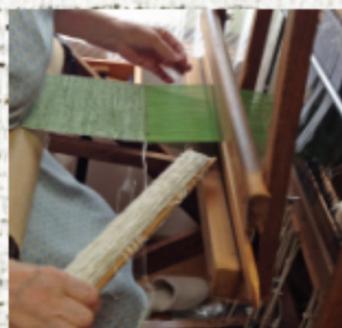
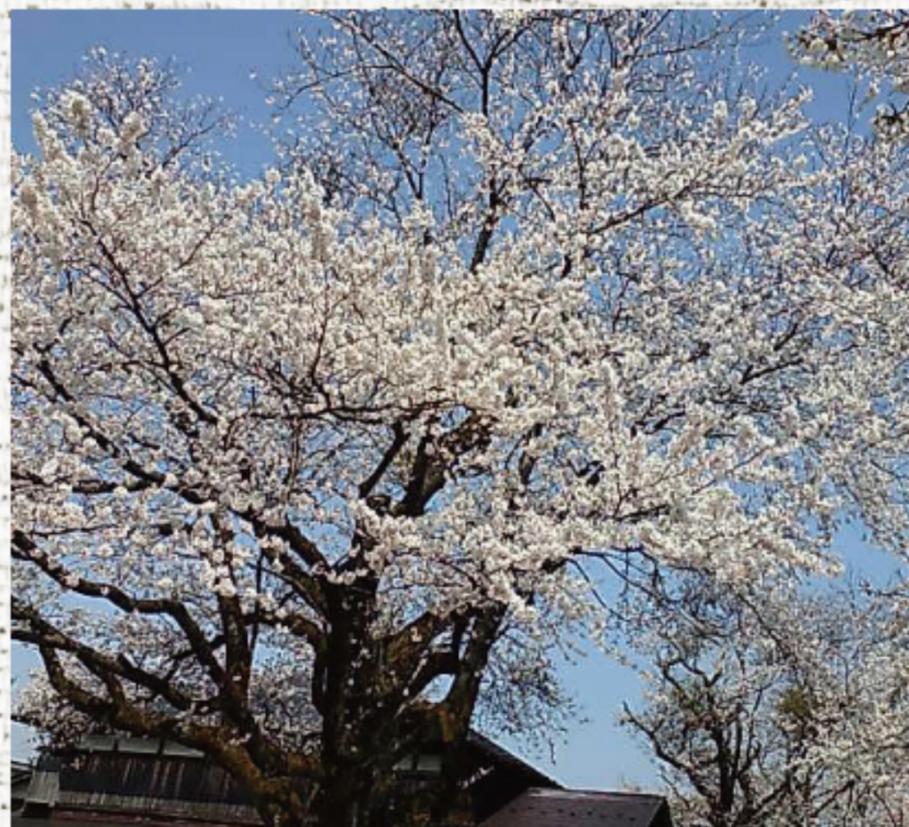
秋は郷愁の夕焼け

冬は静かな夜の雪

絹の製糸工程で出る副産物「キビソ」を緯糸にした

きびそ手織りのブックカバー

キビソは異物が混入したり、太さが不揃いなど、糸にすることが大変困難な素材です。それを丁寧な手作業で織れる糸にし、熟練の織り手がブックカバーに仕立てました。



文庫
サイズ

商品価格 4,400円(税込)
材質/本体手織り部分 絹 100%
デザイン/市松 カラー/4色

鶴岡織物工業協同組合

山形県鶴岡市大宝寺字日本国 223-5

TEL/FAX 0235-22-0507

E-MAIL tsuruori@giga.ocn.ne.jp